# アングル：アップルの「Ｓｉｒｉ」外部開放、競合追い上げなるか

［１３日　ロイター］ - 米[アップル](http://jp.reuters.com/news/technology/mobile)([AAPL.O](http://jp.reuters.com/investing/quotes/quote?symbol=AAPL.O))は１３日、音声アシスタント機能「Ｓｉｒｉ（シリ）」に関する一連の更新内容を公開した。ただ、専門家によれば、同社は人工知能（ＡＩ）の分野で依然としてグーグル([GOOGL.O](http://jp.reuters.com/investing/quotes/quote?symbol=GOOGL.O))やアマゾン([AMZN.O](http://jp.reuters.com/investing/quotes/quote?symbol=AMZN.O))など競合他社に遅れを取っている。

今回の発表で最大の目玉となったのは、Ｓｉｒｉを外部デベロッパーに開放したこと。これにより、ｉＰｈｏｎｅ（アイフォーン）の音声コマンドを利用してウーバー[UBER.UL]のアプリでタクシーを呼んだり、騰訊控股（テンセント・ホールディングス）([0700.HK](http://jp.reuters.com/investing/quotes/quote?symbol=0700.HK))のアプリ「微信（ウィーチャット）」でメッセージを送信できるようになる。

ＡＩの専門家らは、[アップル](http://jp.reuters.com/news/technology/mobile)によるＳｉｒｉの外部開放を重要な一歩と考えている。利用者が増えれば、技術はより進歩するからだ。

ただ、遅きに失したとの見方も一部にはある。Ｓｉｒｉと競合するアマゾンの「アレクサ」やマイクロソフト([MSFT.O](http://jp.reuters.com/investing/quotes/quote?symbol=MSFT.O))の「Ｃｏｒｔａｎａ（コルタナ）」、グーグルのアプリなどは既に開放に踏み切っていたからだ。

ＡＩによって、コンピューターは会話認識など人間が通常行うことを実行できるようになる。現在はスマートフォン（スマホ）のアプリかキーボードやマウスでの操作を必要とする多くのタスクは、ゆくゆくは音声アシスタント機能でできるようになる可能性がある。そのため、こうした機能はすべての大手ハイテク企業にとって、戦略上の主戦場になると考えられている。

アシスタント機能をめぐる戦いで勝利すれば、その企業のプラットフォーム上での売り上げの一部を収入とすることができ、利用者を自社や提携企業の製品へ誘導することもできる。

Ｓｉｒｉの開発元であるＳｉｒｉ社は創業当初、多くの人気アプリと連携していたが、[アップル](http://jp.reuters.com/news/technology/mobile)による買収後、外部企業のアクセスは打ち切られた。スタートアップ時にＳｉｒｉ社に投資したというベンチャーキャピタリストのギャリー・モーゲンサラー氏は、アップルの今回の決定でＳｉｒｉは開発当初の姿に近付くとみている。同氏は「これまでの技術革新のスピードは、われわれの想定より遅かった」と話す。

技術専門家らは、[アップル](http://jp.reuters.com/news/technology/mobile)のＡＩ分野に対する適性にも懸念を抱いている。同社はグーグルやアマゾンに比べ技術者の採用に時間がかかる。また、個人情報に対し厳しい姿勢を取っていることから収集できる情報も限られている。情報収集はＡＩの向上には不可欠だ。